

～韓国トッポギラウンド～

H27. 3. 16 (Mon), 17 (The) in 松泉小学校, 上岩中学校, 亀巖高校, 韓国中央大学

厳しい冬の寒さから桜がきれいに咲く季節へと変化しつつある今日この頃、平日という参加しにくい状況ではありましたが、6名の参加者により九州ネット初の海外遠征が開催されました。韓国中央大学のユ・ジョンエ先生のご紹介で、小・中・高の授業と韓国中央大学の保健体育教育研究所を視察させていただきました。韓国では、3月に新年度が始まるということで、訪問当日が始業式という学校もありましたが、実際の授業等に活用している教材や単元計画をまとめた資料を用意していただいたり、校内の施設を案内して下さったりと、慌ただしい中にも関わらず、笑顔でわたしたちに接して下さる先生方の姿に、ただただ感謝でした。とても有意義な研修となりました。また今回は、「言葉の壁があるのでは？」と不安に思っていたのですが、佐藤先生の娘さんをはじめ、韓国中央大学の学生さんの通訳により、その不安は払拭されたくさん質問をすることもできました。専門用語を難なく訳す佐藤先生の娘さんの姿を見て、親子のレベルの高さを感じました。このような形で、多くのみなさんの御配慮により、充実した研修となったことを感謝申し上げます。



1 2011年韓国ナショナル体育カリキュラムの改訂について



福岡ファイナルラウンドにて、韓国中央大学のユ・ジョンエ先生から韓国の体育事情をプレゼンしていただいたように、小・中学校の内容体系については「健康的活動」「チャレンジ活動」「競争活動」「表現活動」「レジャー活動」といった5つの身体活動の価値をベースに領域が設定されています。高等学校では「エクササイズと健康生活」「スポーツ文化」「スポーツ科学」といった3つのコースから、各学校の状況により学年配当しながら展開していくような感じでした。日本の学習指導要領が種目を中心に学習内容を教えていくのに対し、韓国では学習内容を

中心に種目を選択していくといったイメージでしょうか。

2 松泉小学校

チャ・ミンチョル先生の5年生の授業を見学しました。領域は「競争活動」で、ボールゲームを中心に16時間を配当しているということでしたが、その中で3時間程度を予定している蹴野球（キックベースボール）の授業でした。また、今回は単元の1時間目だったということで、蹴野球をアレンジしたタスクゲームで協力することを学習のねらいに据えて授業が展開されていきました。

まず始めに教室にてICTを活用し、ゲームの進め方や本時の学習内容のねらいなどが説明されました。その後、グラウンドに移動して各自で準備運動をした後ゲームが行われ、途中で協力するための具体例を児童に紹介しながら作戦タイムの時間を作り、再度ゲームが行われるという授業展開でした。



授業では、児童が楽しそうに参加している様子と学習のねらいを引き出そうと児童の様子をうかがっている先生の姿がとても印象的でした。作戦タイムでは、先生が守備位置の話をしなが

役割を分担して協力することの大切さを説明すると、それを受けて子どもたちは地面に絵を描きながら話し合ったり、実際に守備位置を確認しあったりして授業は盛り上がっていました。ゲームが再開されると、作戦通りに動こうとする児童が出てきて、先生の学習のねらい通りに授業が展開されているなと思いました。



ここで行われた授業等のアイデアはソウル市内の有志によるオンラインネットワークによって共有されており、オフラインでも30~40人は集まって研究会を開いているそうです。

3 上岩中学校

キム・ジンヒョン先生による2年生の授業を見学しました。キム先生は、ソウル市内に3人しかいないMaster Teacherで、地域の教員を指導する役割を担っておられます。上岩中学校では、運動実践を通じた健康体力の向上やスポーツ教室の活性化をめざしており、健康体力増進についての管理日誌という冊子を作成されていました。冊子には、HIMS（Health-related fitness Improvement & Management System）健康関連フィットネス向上と管理システムに関する内容がまとめられており、健康体力の運動方法や運動プログラムの作成方法、栄養摂取や生活習慣に関わる内容で、日本で例えると体づくり運動の学習に



近い内容でした。授業は、「自分の体力を知る」という4時間扱いの単元で、敏捷性、瞬発性、柔軟性で内容が構成されており、本時は2時間目のジャンプ系を中心としたトレーニングの授業でした。キム先生はとてもユーモアがあり、パワフルな授業を展開されており、生徒が徐々に惹き込まれていく様子がとても印象的でした。素晴らしい教育者は万国共通なのだなと感じました。



4 亀巖高校

リー・チュンウォン先生の2年生の授業を見学しました。サッカーを通して「スポーツ文化」の領域の授業が展開されました。男女共修の授業でしたが、特に女子はサッカーの既習経験が乏しく、ボールに慣れることから単元はスタートしているようでした。授業の始まりでは、韓国のサッカー選手の話をしなが



らスポーツ文化につながるような話題を挙げ、生徒に興味関心を持たせたり、授業の中盤では、サッカーの技能レベルに合わせて指導をしたりするなどの工夫がされていました。その成果は生徒たちの様子にあらわれていて、授業の始まる前からサッカーボールで遊んでいる男子生徒は数人いるくらい

5 韓国中央大学 保健体育教育研究所

韓国では唯一国からの指定を受けた保健体育教育研究所であり、9年間の研究期間のうち今年で4年目ということでした。年間3億ウォンの国家予算が組まれていることから国からの期待が大きいことがうかがえます。研究所の目標は、地域住民を運動させることと、勉強しながら運動する学生を支援することの2つを柱にしています。金銭的な理由から運動する習慣がない人たちのために運動習慣を支援することや韓国における課題でもあるスポーツと勉強を分けて考える風習を改めて、スポーツでも進路指導ができるような環境を作ることを目指しているそうです。具体的には、スポーツを通して全人格の形成を目指しており、スポーツを通じた教育寄付や、韓国国内だけでなくフィリピンでも教育支援事業を行っている。研究活動と成果等は、国内外の学術大会を始め、特別講義や研究所内の月例セミナーを行ったり、企業や小学校と提携するなどして共同研究を行ったりして研究成果を広めていることなどを紹介していただきました。



以上、4つの教育機関を見学させていただき、韓国のソウルフードも堪能し、大満足の研修会となりました。韓国に旅行することはあっても、学校の授業を見学できる機会はそうはないことだと思いますので、とても貴重な体験をすることができました。これもひとえに九州体育・保健体育ネットワークと韓国中央大学との連携協定のおかげです。それぞれの代表であるユ先生と佐藤先生をはじめ多くの先生方に感謝申し上げます。

最後はみんなで書店へ行き、韓国の体育の教科書を片手に帰国いたしました。
(報告：後藤晃伸)

